

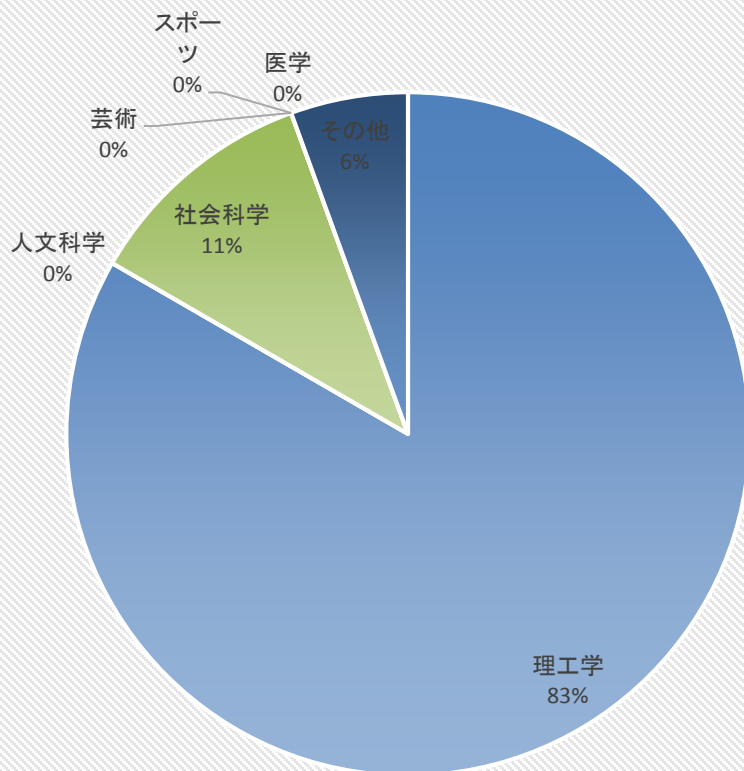


ダブル・メジャーの時代
チャールズ・アイブスに学ぶ保険ビジネスと音楽
アンケート集計結果

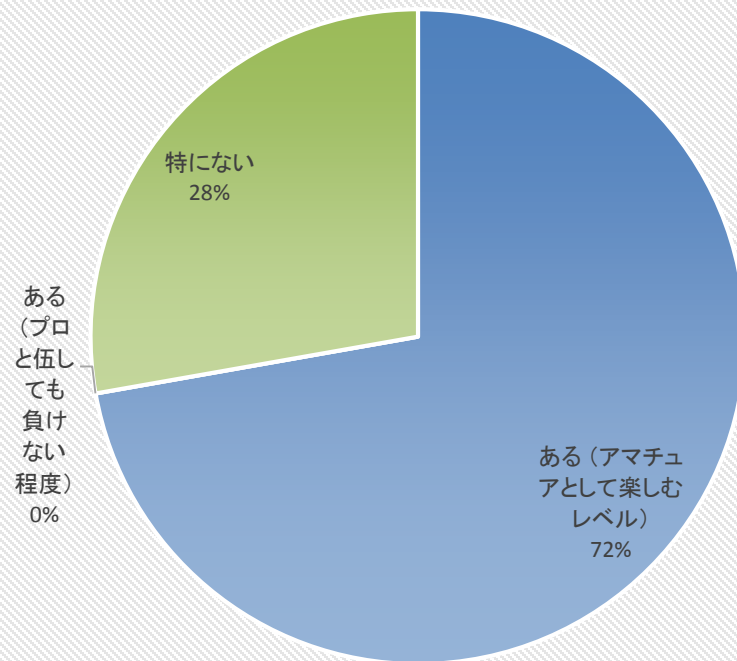
2015年1月17日

OLIS - プルデンシャル・ジブラルタ生命保険寄附講座アンケート集計結果 (学生編) 回答総数:18

Q1:現在の専攻を教えてください。

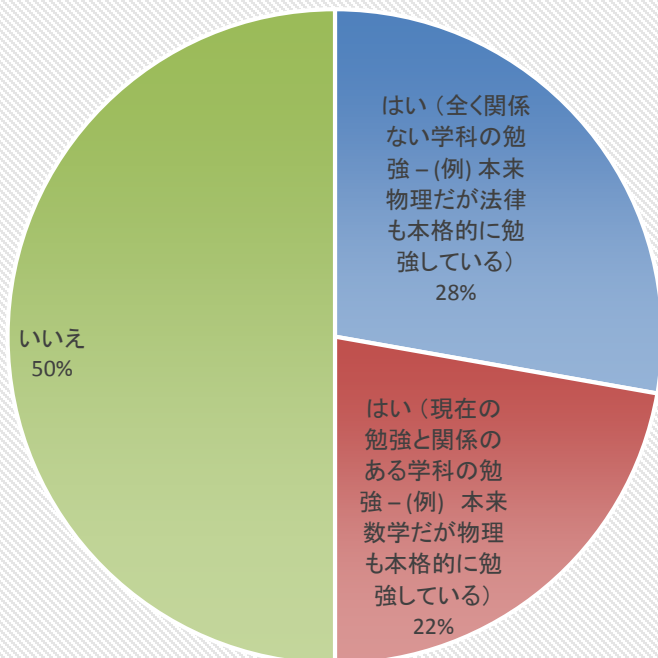


Q2:現在の専攻以外に特に好きで熱中できることがありますか。

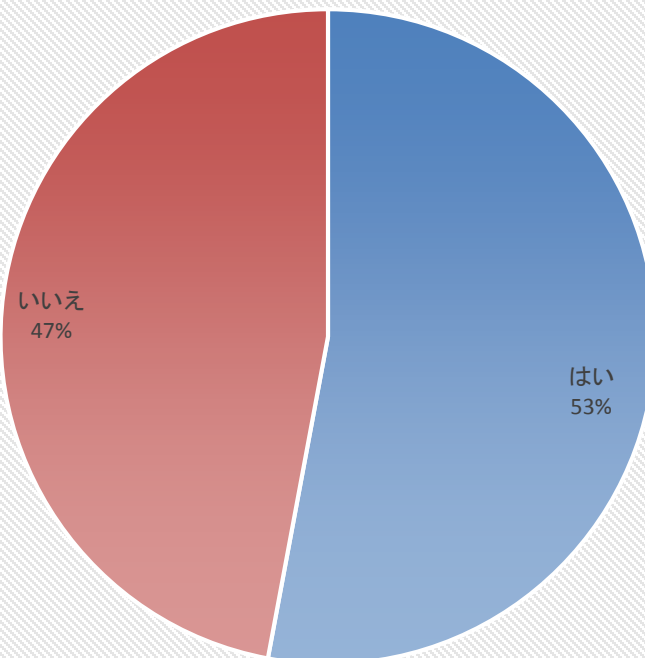


OLIS - プルデンシャル・ジブラルタ生命保険寄附講座アンケート集計結果 (学生編) 回答総数:18

Q3:現在勉強している学科とは別の
専門学科の勉強もしていますか。

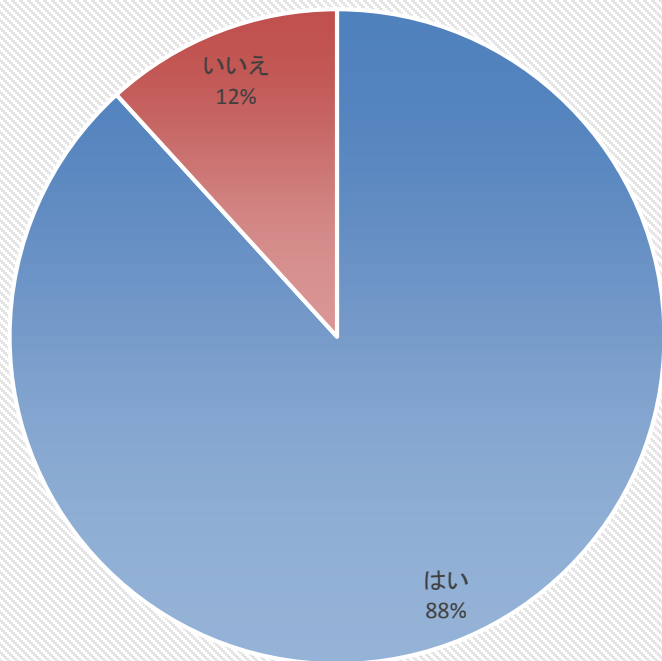


Q4:生まれ変わっても現在の専攻を
大学で選んでいると思いますか。



OLIS - プルデンシャル・ジブラルタ生命保険寄附講座アンケート集計結果 (学生編) 回答総数:18

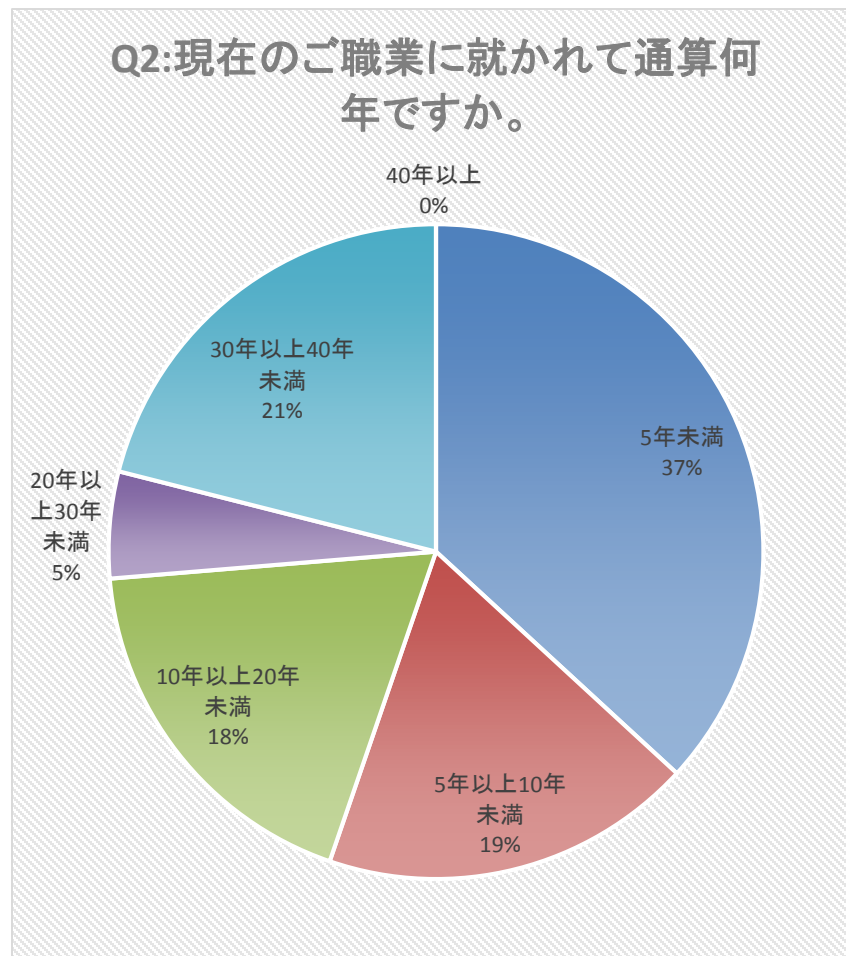
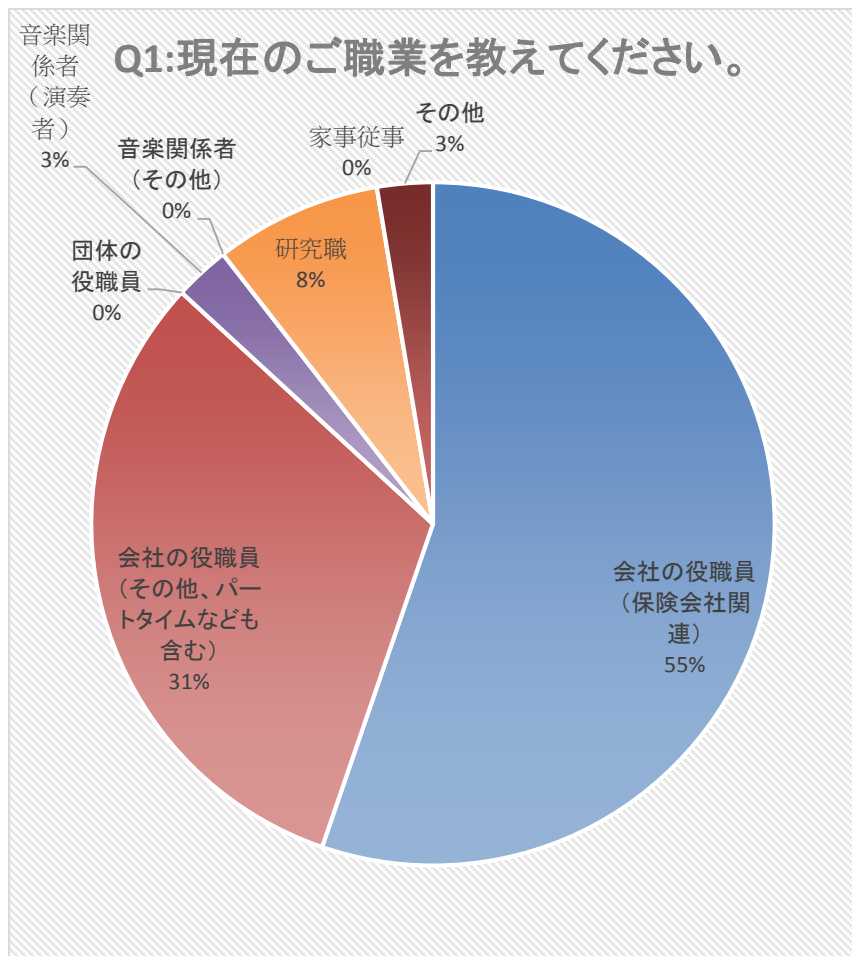
Q5:総じて、現在の専攻(学部など)を選んだことには満足している。



Q6:皆様は「ダブルメジャー」ということについてどのような印象、ご感想をお持ちですか。(任意記載)

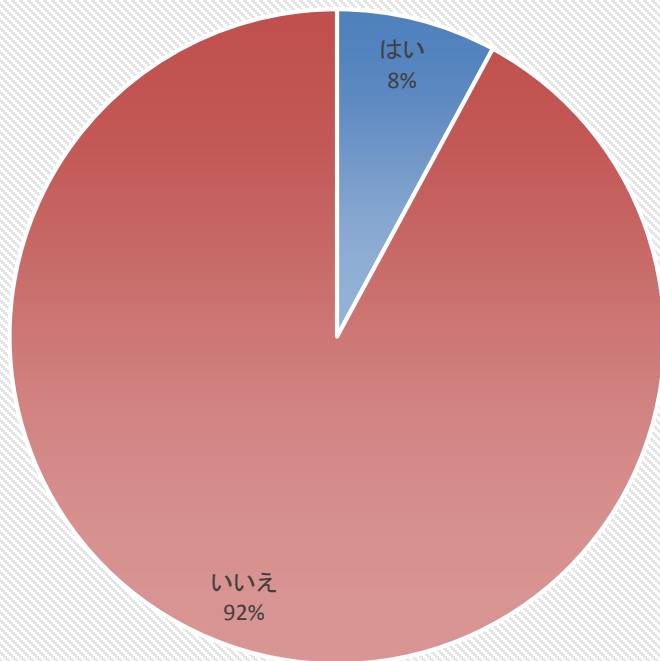
- 生半可な覚悟では中途半端に終わってしまい、大変難しいことのように感じる。
- 私はそれを目指したいです。
- 幅広い分野にわたっての知識を得られるので有用であると感じている
- 器用な印象がある。場合によっては器用貧乏やどっちつかずとの印象もある。
- 人生を2倍、あるいはそれ以上に充実させるであろう心掛けであるがその一方で、二頭追うものは一頭も得ずに成りかねないリスクもある。多くの人が中途半端で終わりそう。
- 金と時間がかかる。貧乏には厳しい

OLIS - プルデンシャル・ジブラルタ生命保険寄附講座アンケート集計結果 (社会人編) 回答総数:38

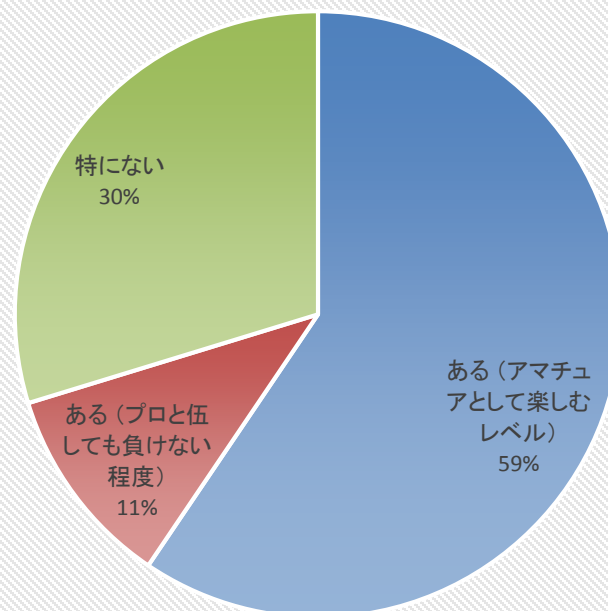


OLIS - プルデンシャル・ジブラルタ生命保険寄附講座アンケート集計結果 (社会人編) 回答総数:38

Q3:現在、関連性のない二つ以上の
仕事を持っている。

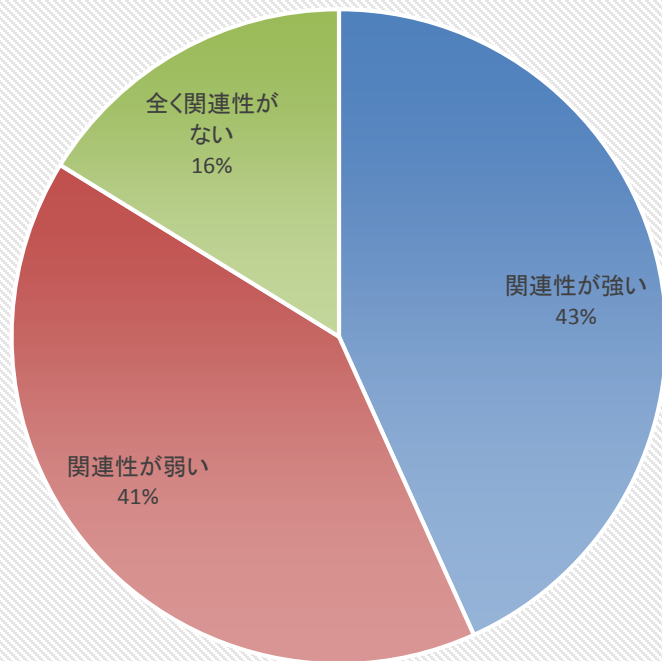


Q4:現在のご職業以外に特に好きで
熱中できること、または本来やりた
かったことがありますか。

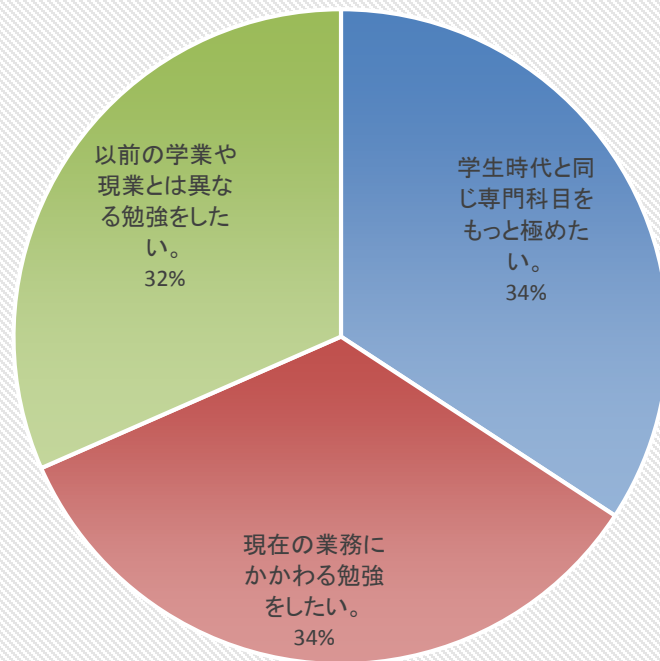


OLIS - プルデンシャル・ジブラルタ生命保険寄附講座アンケート集計結果 (社会人編) 回答総数:38

Q5:現在のご職業は学生時代の勉強
と関連性がありますか。

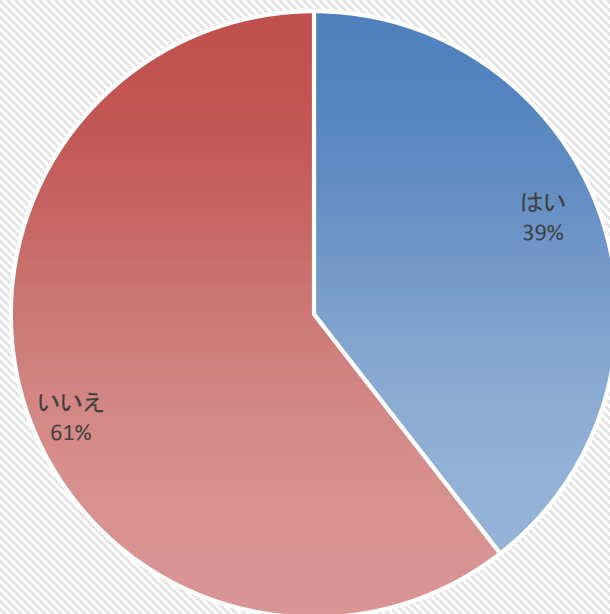


Q6:もう一度学生に戻ることができる
としたら、

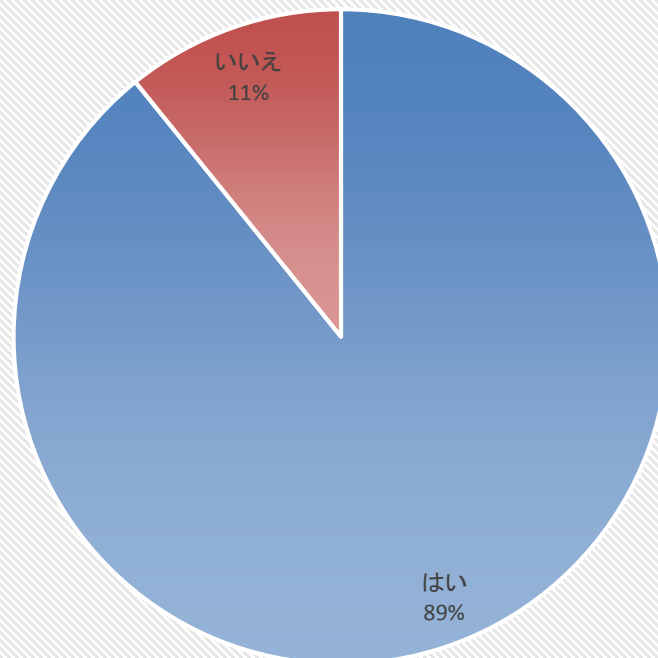


OLIS - プルデンシャル・ジブラルタ生命保険寄附講座アンケート集計結果 (社会人編) 回答総数:38

Q7:生まれ変わっても現在のご職業
(あるいは同じご専門を)をされている
と思いますか。



Q8:総じて、現在の職業には満足して
いる。



OLIS - プルデンシャル・ジブラルタ生命保険寄附講座アンケート集計結果 (社会人編) 回答総数:38

Q9:皆様は「ダブルメジャー」ということについてどのような印象、ご感想をお持ちですか。(任意記載)

- ダブルに限らずトリプル以上も良いと思います
- 憧れ、尊敬
- 天は二物を与える。
- 今日の日本のクラシック及び現代音楽家にとっては、社会との関わりという点において非常に学ぶべき点が多い事項だと思います。
- 今までには何か1つの専門分野に特化しているか、全体を満遍なくこなせるかどちらかで十分であったが、今後は複数の分野を専門的レベルでこなせるような人材が必要とされ、それが主流となる時代になっていくような気がする。ダブルメジャーこそがメジャーになると言ってもいい。
- 才能があればよいことだと思います
- ICUで専攻を決める際に、2つの分野を同じ比重で専攻することをダブルメジャーと言ったかと思います。アイブスについては今回のフォーラムで知りましたが、現在音楽でもクセナキスやヴァレーズも音楽ではない分野(建築や数学)から作曲をされていたと思います。
- 大成まで非常に労力が必要だが、興味の尽きない生涯学習にもなりそう。
- 資格職、プロフェッションとしての技量を身につける必要のある進学課程では「ダブルメジャー」はなかなか難しいと思います(医学系・薬学系など)。見聞を広めるという意味で、今は風前の灯火の「教養課程」での広がりをもう少し見直すところから始めた方がいいように思いますが。
- 人生を二倍楽しめる生き方ができるのではないのでしょうか。
- 2番目の職業がメジャーなのかアマチュアなのかの程度の差はあるにしても、年齢を重ねるに従って2番目の仕事(あるいは趣味)をもっと早い時期から始めていればよかったと感じています。
- 学生時代はダブルメジャー(理論経済・数学)だったが、現在は仕事や試験勉強などでなかなか他のことに手を出せないでいる。

OLIS - プルデンシャル・ジブラルタ生命保険寄附講座アンケート集計結果 (社会人編) 回答総数:38

Q9:皆様は「ダブルメジャー」ということについてどのような印象、ご感想をお持ちですか。(任意記載)

- 二刀流！
- 様々な事に興味を持ち携わることは人生の幅と人脈を広げ豊かな生活を送ることができる。
- わたくしの能力では、ダブルメジャーは無理なようです。
- 魅力的、不可避なものに思える反面、現状危険で推し進めるには時期尚早でもあるという印象。ビジネス上でもプライベート上でもより重要になってくる。他方でトレンドに成り下がっている感もある。原因のひとつとしては、実践者が少ないことにもあるし、定義付けの不足、メリットやデメリットの曖昧さ、覚悟のなさもある。加えて現状ダブルメジャーでなくとも生きていける、食いつないでいける雰囲気もある。
- 充実しているイメージで憧れます。
- 2つ(以上)の才能があるのはうらやましい
- 異なった二つの専門性があり、多かれ少なかれ何かしらの相乗効果を生み出している。
- 「ダブル・スタンダード」という語と同様、必ずしも肯定的な印象ではない。まして、日本語で「メジャー」と言うと、majorでなくmeasureと取られる可能性もあり、であれば、ダブルスタンダードと近い語感となってしまう。したがって、日本では別の語が相応しいと考えられる。アイブズがマイナーなので、彼が保険屋さんとのダブルメジャーだったというのはなおさらマイナーな話題と言える。作曲家であれば、リムスキー・コルサコフが海軍軍人だった(ただし、若い頃)話はよく知られている。保険も属する金融の世界では、元日銀理事だった吉野俊彦氏が著名エコノミストでありつつ森鷗外研究者であったこと、そしてその森鷗外が陸軍の軍医であると同時に作家であったことなどが広く知られている(彼らに対しては、よく「二足の草鞋」という言葉が使われる)。
- 本来の仕事以外の側面を持っていることは素晴らしいことであるので是非この面もやりたいが、時間がないのも事実である
- ダブルメジャーは、万人が認めるレベルや趣味のレベルの違いがありせよ、誰もが持つ側面であると思います。